

RITS

立命館大学

# 応化会ニュース

## みんなで応化会を育てよう

応化会会長 田村 弘三郎

錦秋の候 会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

併せ、日頃は応化会に格別のご理解とご支援を賜り誠に有り難うございます。紙面をおかりしまして厚くお礼を申し上げます。

私こと、去る六月十七日立命館大学・応化会第七回定時総会におきまして皆様のご承認を頂き引き続き応化会会長に就任することになりました。もとより浅学非才の身ではございますがご期待に添えるよう微力ではありますが努力し、応化会の発展に尽力してまいりたいと存じますのでご支援の程よろしくお願い申し上げます。

恒例によりまして、会長就任のご挨拶を申し上げます。

この度、はからずも三期続いて会長の後責を担うことになり改めて身の引き締まる思いがいたします。私の在任、六年間を振り返ります時、嬉しいことに私が常に誇りとし、心の支えとしてきました

母校・理工学部が社会の変革に先駆け素晴らしい躍進を遂げ、各界から高い評価を受けていることとございます。今にして思えば日本の社会制度や仕組が変わろうとしている時代に、時代を先取りした新しい大学を具現化させる第四次長期計画に基づき理工学部発祥の地、また多くの学友が育ち、馴れ親しんできた衣笠学舎からびわこ・くさつキャンパスに学舎を移し教育・研究の環境整備、設備の拡充、加えて開かれた大学として地域への参画、産業界への連帯を

深め、研究を支援する総合理工学研究機構を組織するなど二十一世紀を担う教育・研究機関として新生したことでございます。更には経済・経営学部と融合を図り、多様化する社会ニーズに応え文理融合大学と位置づけ進展していることとでございます。また二昨年、理工学部は幾多の変遷を経て六〇周年を迎え、理工学部・記念校友友会が開催されました。私は大会に出席し大南正英前総長の「二十一世紀のBKICの展望・世界の中の大学をめざして」の講演を拝聴し、大学の果たす役割や躍進を改めて心強く思った次第です。このように、理工学部の躍進を身近に見聞し、学園の催しにも参加させて頂き、応化会事業の重要性を痛感いたしております。

さて、日本は厳しい経済再生の真っただ中にあります。「構造改革なくして経済の再生はない」として政府は国民に痛みを伴う聖域なき構造改革に取り組んでおり、不良債権の処理など金融機関にとっても、中小企業を始め産業界にとっても厳しい日々が続くものと考えられます。今こそ、経済再生の原動力として成長が期待される情報技術や環境分野等での技術革新を進め、一日も早い市場の活性化と安定した経済社会の構築が急務でございます。

皆様には拠り所として、素晴らしい母校がございます。「百聞は一見にしかず」と申しますが、この機会に母校と積極的に交流を図り、自らの社会生活を豊かにし、ご活躍を頂きたいと存じます。また応化会の事業に参加し、みなさんの手で応化会を育てて頂きたいと存じます。

お除で応化会も年を重ね、来る平成十五年には二〇周年を迎えます。この節目となる二〇周年を皆様と一緒にお祝いし、懇親を深め、更には応化会の躍進を誓いたいと存じます。ご案内を申し上げます。最後に、立命館大学の益々の躍進と皆様のご健勝・ご活躍を心から祈念し、応化会に一層のご理解を賜りますようお願いを申し上げます。ご会長就任の挨拶といた



# 新世紀を迎えて

応用化学系学系長 松岡政夫



平成十三年度応用化学系学系長として応化会会員の皆様方にご挨拶申し上げます。

稀にみる高支持率の小泉新内閣が誕生し、景気の回復が待たれる今日このごろですが、会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。

最近は少子化による受験者人口が減少するなかで、私学として生き残るための懸命な努力が立命館

大学でも行われております。幸いなことに立命館大学は昨年来でた一〇〇周年を迎えることができ、立命館アジア太平洋大学の開学によって総合学園としての立命館が社会的にクローズアップされ

たことは誠に喜ばしいかぎりであります。新世紀を迎えますます躍進する理工学部をここに紹介いたします。

施設面ではBKCキャンパス内に学びと成長を支援するためにセミナハウス・エポック立命二十一が五月にオープンしました。ここでは講演会などに利用できるコンベンションホール、会議室、交流スペースの機能を持つエントランスラウンジのほか宿泊施設も完備しており、これからの多目的利用が期待されます。

教学面では大学院理工学研究科に区分制博士課程（前期課程二年、後期課程三年）の総合理工学専攻に加えて、入学定員二〇名を持つ一貫性博士課程（五年）のフロンティア理工学専攻が四月からスタートし、優れた研究・技術者

の育成を目指しております。九月からは留学生を対象とし、英語で講義を行う国際産業工学特別コース（入学定員二〇名）がスタートします。さらに、来年度からの情報学専攻増設の論議が活発に行われております。

応用化学系では昨年、化学生物工学科の外部評価が実施されたのに引き続き、今年には応用化学科が外部評価を受ける予定であり、カリキュラムや教育施設、また、教員のアクティビティが厳しく評価されます。これに関連して日本技術者教育認定機構（JABE）の評価を受けることを検討している学科もあり、これからは教育機関も外部からの評価を受け、それによって大学のステータスが評価される時代になりつつあります。

最近、大学生の学力低下の問題がマスコミ紙上を賑わしておりますが、入り口を広くすればするほど出口の就職が問題となります。最近では、社内における教育研修を何年もかけて実施するような会社はなくなり、即戦力となる新入

社員が求められております。応用化学系では学びのレベルがどの程度であるかを評価するために学部三回生を対象に到達度検証試験を今年から実施する計画で準備を進めております。試験の実施に対しては教学創造枠分のT A 予算が計上されており、また、この予算は授業に関するホームページ作成・維持管理、大規模講義での演習・採点補助、低回生支援企画補助などにも使用できるといふきめ細やかな配慮がなされております。進路・就職支援では低回生時から進路問題を意識させ、学力向上および専門性涵養の観点からキャリアチャートを現一回生から導入し、その成果を今後期待しております。

BKCキャンパスに移転して八年、新世紀を迎えた現在、教育環境・研究施設もますます充実してまいりましたが、これから解決すべき問題も数多く残されております。多様な入試形態で入学した学生の成績も二極化する傾向にあり、学生全体のレベルアップが大学のステータスをあげるための重要な課題と考えられます。応用化学系の教員一同、社会人として指導的な役割が果たせる学部生、院生を育成すべく最大限の努力をいたしておりますので、これからも応化会会員の皆様方のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願



い申し上げます。これからのご発展を祈念いたします。

# 大田雄三様

のご冥福を心からお祈りします



## 大田雄三君追悼の記

木村 碩志

(昭和二十七年卒)

ン化合物をメインにした化学合成品製造の分野に着目し、果敢に挑戦して企業の基礎を確立されました。

続いて、プラスチック関連の「紫外線吸収剤、光安定剤、ウレタン発泡用触媒等」、環境保護・公害防止関連の「オゾン層破壊をもたらす有機溶剤系洗浄剤の使用を削減する技術、湖・河川の富栄養化の原因となる雑排水中のリン化合物の除去技術、湿式脱硫酸媒等」また、原子力産業では「放射性元素の除去技術」等々二十世紀に向けて最も関心が高く、且つグローバルな課題に取り組んでこられました。

一九五八年に戸田市にも工場を建設され、一九六三年には商号を城北化学工業株式会社に変更され、長年培った技術を駆使して世の中に貢献しうる企業に育て上げられました。さすが、大田社長の見の明には常々敬服し、強く感銘を受けてきた次第です。

この時期に、突然のご逝去は誠に残念の極みでしたが、大田社長の亡き後は杉田研究室門下の戸谷順造専務以下十数名の後輩社員が遺志を継いでくれると信じてい

ました。故大田社長にはご夫人孝子様との間に三人のお子様がおられ、それぞれご立派に社会人として活躍されていると聞いております。

三男の友昭氏が同社に勤務されておりましたが、社長逝去の後を受けて、一月の役員会で代表取締役社長に就任された由、誠に喜ばしい事でありました。

戸谷専務以下後輩の諸兄もこの若い社長を盛り立てて、ますます発展されますようお祈り申し上げます。

我が母校立命館大学も学園関係者のご努力により、近年目覚ましい発展を遂げています。衣笠キャンパスをはじめ、BKIC、立命館アジア太平洋大学の開設等々素晴らしい学園に成長して参りま

した。故大田社長には何かと母校のためにご尽力戴きました。草葉の陰で、この母校の発展を喜んでおられることと思います。



最後に恩師故杉田嘉一郎先生が常に申されていた言葉があります。

「冬来たりなば、春遠からじ」

英国の詩人シェリーの「西風に寄する歌」の一節です。如何なる悪条件も勇氣と努力をもって克服し

つつ、耐え忍んでいけば、必ずや陽光の輝く日がやって来るであろう。

貴君は正に先生の申されていたこの言葉を実践してこられました。

これからは、どうぞ安らかにお休み下さい。

(アリス環境サービス(株)顧問 薬学博士)

城北化学工業(株)代表取締役社長 大田雄三君が二〇〇一年一月二日午前七時五十分逝去された旨、同社の戸谷順造専務(昭和三十九年化学科卒)から連絡を受け、思わず我が耳を疑い愕然と致しました。

大田雄三君は卒業後間もなく、東京都板橋区に城北化学工業所を独力で設立されました。今で言

ばベンチャービジネスの走りといえ、享年七十歳、この新しい二十一世紀を迎え、厳しい時代を乗り切っていく企業経営者として有能なリーダーであっただけに、誠に残念



# 我社の創立者また 私の良き大先輩を偲ぶ

戸谷 順造

(昭和三十三年卒)

できました。

前大田雄三社長は、立命館大学では室伏教授の元で油脂に関連する卒研を専攻され、また杉田教授

「我は湖の子 放浪の  
旅にしあれば しみじみと  
昇る狭霧や さざなみの  
滋賀の都よ いざさらば」  
生前の大田雄三社長は何か事があると思ふ『琵琶湖周航の歌』を歌われました。

前社長は、現立命館大学琵琶湖草津キャンパスに程近い能登川町で昭和五年に生誕され、陸軍幼年学校を経て彦根中学校を卒業されるまでここで青春を過ごされました。近在で鮎・鰯等を捕りまた鴨を捕獲し、と和やかな暮らしの想い出、幼年学校時代の機関銃被弾等苦しい体験等よく聞かせていた

ていました。これらの状況から、昔から夢に描いておられた有機リン化合物の製造を、塩ビ用安定剤会社が集まる東京で始めたときよく話されました。

昭和三十三年東京都板橋区のある工場のガレージを賃借りし二〇〇Lのホルベン（フラスコ）で第一号の亜リン酸トリフェニルを合成し、自らリヤカーで一〇〇kmも離れた得意先まで運んだのが事業の始めだったとよく聞かせていただきました。この亜リン酸トリフェニルは、現在も当社の主力製品として頑張っております。

昭和三十三年には、現在当社の研究所が在る埼玉県戸田市に土地を手当てされ株式会社としてスタートされました。

ここで大変恐縮ですが、大田先輩と私の出会いを少し述べさせていただきます。

私は、有機合成が好きで杉田教室を志願しました。卒研テーマ

は、なんと故杉田嘉一郎教授ご専門のスチルベスリトール全合成に関するテーマではなく「お前は有機リン化合物をやれ」と言われま

やむなく図書館でバイルスタインを調べました。亜リン酸トリフェニルを見つけた。この化合物の合成を出発点としました。この頃杉田研究室に月に一度は必ず訪れるポストンバッグを持った

開襟シャツの人がおられました。杉田教授はなにもおっしゃらないので、どこの人か知りませんでした。昭和三十七・八年頃のことです。さて就職活動というとき、杉田恩師から「東京で先輩が有機リンをやっているから見て来たらどう」と言われ夏休みを利用して今

で言う会社訪問をすることになり、埼玉県戸田市（当時、戸田町）の本社兼工場を訪問しました。ここで先のポストンバッグの先輩にお会いしましたこの出会いが私の一生を決めることになりました。入社当日から企業の一員としての仕事をさせていただいたことは、生涯忘れません。ありがとうございます。

以後この偉大な社長の元、活躍製品・休暇製品・睡眠製品等を合わせ千種類以上の化合物を世に送り出す事ができました。最後に、故大田雄三社長は、「人生は、人を観る目と先を観る

目である」と常々言われておられました。故末川博総長がよく話された「運鈍根」とを教訓にこの企業のため世のために努力します。安らかに眠りください。

最後に失礼ではございますが、大田雄三社長葬儀の折には、松田教授始め応化会の皆様、岩橋清先輩・木村碩志先輩始め諸先輩の厚いご配慮をいただいたことは故人も決して喜んでおられることと思

専務取締役



なりました。大学卒業後大阪にある化学品製造会社に勤務されましたが倒産しました。丁度、塩ビがアメリカから上陸し生産が始まってしばらくの頃で、これに必要な有機リン化合物は全てアメリカから輸入され

# 尾池耕三様

のご冥福を心からお祈りします



## 尾池耕三兄を偲んで

鎌田 浩 二  
(昭和二十三年卒)

去る六月二十八日、尾池兄の突然の訃報に接して耳を疑いました。兄が入院されたことは知っておりましたが、自分の健康には人一倍留意していたあの元氣な兄がこんな早く亡くなるとは想像もしていませんでした。

兄との付き合いは、太平洋戦争末期の昭和二十年春、専門学校化学工業科に入学した時からです。兄と同じ一組でした。背が高く、精悍な容貌で、謡曲で鍛えたく

兄は慈愛溢れた眼差しで笑って受け流してくれていました。私は専門学校を卒業して、大学に進み、更に社会人になってから社会を訪問していました。今にして思えば兄は友人を選択する基準を何か定めていたように思います。兄自身の手持っていない何かを持っている人物を友人に選んでいたのではないかといいことです。そして、それは決して打算ではなく、心からの希求であったと思っております。

そうした中で最も強く私の記憶に残っているのは兄が自身の金・銀糸製造事業に乾坤一擲の勝負を賭けた、真空蒸着技術の導入に踏みきったことです。

その頃私は大阪でセロファンの販売をしていました、ある時、京都伏見の工藝指導所の技師からセロファンの巻取サンプルの要請があり、持参しますとそこには今まで見たこともない装置がありました。それが真空蒸着の試験設備だったのです。その技師は、「金・銀糸の組合の人達が最近この装置を見学に来られました」と言われました。その話を兄にする

と、兄は組合の人達の見学の話は全く知りませんでした。少し顔色を変えて、早速工藝指導所に聞きに行くことに話していましたが、



兄は常日頃「運・勘・決断」が、自分の経営モットーだと語っていましたが、運を見逃さず、また、鋭い勘だけに頼らず、常に自分の眼で確認し、関連する情報を充分吟味・分析して、その上で決断を下していたと思います。前述の真空蒸着技術の導入も、私が齎した運を兄の鋭い勘で受け止めて的確な決断を下したわけです。更に、兄は優れた人材を採用し適所に配置し、あらゆる点に目配りし、人の和を心掛けていました。歩きながらもメモをとっていた姿や、枕元にもジャンル別のメモ帳を置いて思い付いたことをメモしているのだと語っていたことなども、今鮮明に思い出されます。

ここにあらためて故人の思い出を辿り、会社や家族、更に母校や友人達に注いだ愛情溢れる人格を称えつつ、心からご冥福をお祈りする次第です。

合掌

## 尾池耕三氏をしのぶ

加藤 隆 康  
(昭和四十年卒)

尾池耕三氏（昭和二十三年専門）は立命館大学在学中に現在の尾池工業㈱の前身である㈱尾池商店の社長として父綱之輔氏から引き受

けられ、その後五十二年間（一九四七～一九九八）にわたって尾池工業味の社長として今日の隆盛を築き上げられました。

三年前、現社長の均氏に社長を譲られたのちも、関連会社十一社の代表取締役会長を兼務されて活躍されていきました。

お亡くなりになる寸前まで担当者に對して電話での指示、激励をされ、文字通り「仕事一途」に人生を過ごされた感があります。

一時期は社員の中に二〇名を越える立命館の同窓生を擁し、「立命館」と称して毎年会合を重ねていました。耕三氏は非常に健康に留意される方で、会合も野外で行われることが多かったように思います。

立命館大学にはこのほか愛着があったようで、校友会が開催する同窓会などには社員の中で「若い者はほとんど不参加するように」と白費で購入された入場券を配られていました。勉学にも理解があり、社員の中から立命館の二部卒業生も数名を数えます。



私を含め、同窓生に途中入社者が数名いますが、私ごときが採用されたのも、多分同窓生であることとの配慮もあつたのではと思つております。

京都の伝統産業である金銀糸を近代的な生産方法（真空蒸着技術）で確立し、その技術を他の産業分野に多角的に応用された功績は我々社員にとつてのみならず、産業界にとつても大きな貢献をされ、昭和六十三年には京都府産業功労者として知事表彰を受賞されていきました。

金銀糸に続いて、転写箔、包装材料、装飾材、農業材料、特に工業材料としては人工衛星から、車、情報関連機器への応用まであらゆる分野に採用され、今後さらに発展する可能性を秘めたこれらの技術の核を植え付けてくれた功労者ではないかと思ひます。

外に向かつて京都の商工会議所、工業会、ライオンズクラブ等にもつと参加されては、との社員の言葉にも「君たちがもつとしつかりやつてくれなさい」と逆にねじ込まれたこともありません。

道を進む途中でも思ひついたら「メモ」をとる。近くで電話があつたらすぐにかけられる。というように常に頭を働かせている方でした。

趣味としては謡曲、将棋、特に将棋は一時間に三局はやりたいほどで、相手をするときよく「早く早く、もう詰んどる」と忙しかつたのを覚えています。

また、ご家庭にも気配りをされ、晩年は奥様のお体が思わしくなかつたこともあつて、よくお買物にもでかけられたとお聞きしております。

後任の社長もすでに実務はしっかり耕三氏の遺志を引き継がれております。

社員一同一九九〇年となって更なる発展を目指しますので立命館大学にゆかりのある会社としてご支援ください。

## 応化会通信

### 総会だより

本年六月十七日（日）午後三時より京都タワーホテルに於いて第七回総会が開催された。三名の名誉会員及び田村会長ほか六十五名の役員が出席し、平成十二年度事業及び決算報告、役員選出、平成十三年度事業計画及び予算などの審議が行われた。松田幹事の司会

で開会し、まず過去三年間に逝去



終身会費制は平成十三年三月及びそれ以降の卒業生に適用し、平成十三年三月以前の卒業生は従来通り年会費制とすることが承認された。

四、香山役員選考委員長より、田村氏に引き続き会長をお願いしたい旨の提案説明がなされ、承認された。顧問、副会長、及び会計監査の選出について松田幹事より幹事会での審議経過が説明され、原案通り承認された。

以上の役員を含む全役員名については、別表を参照されたい。五、平成十三年度の事業計画と予算案に関する提案説明が小島、加藤幹事からなされ、質疑の

された。〇〇余名の会員に對して懇請を行った。続いて、田村会長及び松岡学系長の挨拶の後、議長に小林氏を選出し、議事が進められた。

六、松田幹事より会則の一部変更について提案があり、承認された。また、会長からの緊急提案として、岸氏に感謝状が贈られた。

最後に新役員が一同に紹介され、代表して田村会長から挨拶が述べられた。総会終了後、同会場にて本学OBでNHKアナウンサー川端義明氏による講演会が開催された。その後、懇親会が開かれ、二時間あまりにわたつて会員が親睦を深めた。

三、松田幹事より年会費に関する提案説明がなされ、審議の末、

# 健康長寿

篠原長政

(昭和四十三年卒)

よりだ員会

高橋玲爾先生の研究室で、電気化学分析について勉強させていただきました。研究の方は「電子系化合物の非水ポラログラフィー」、特にプロトン付加反応の影響について厳しく御指導いただき、少しばかり頑張ったつもりでしたが、「この程度で研究を行った気になってはいけない」とおっしゃったことを覚えています。

就戦については「明日の十両より今日の一両」という考え方もある」との先生のお言葉で踏ん切りがついて、余り勉強していなかった電気化学の応用分野である「めっき」の研究室に勤務しました。

ある時、めっき現場から、成分分析がめっきと開発されためっき液の実用化はできないという要望がありました。学生時代の分析化学の勉強、特に永井外代士先生講義の「イオン平衡」が直接役に立ちました。これは、すでに数十年前のことで、学会（協会）ではコンプスのおみないなものとして褒めていただいたことを思い出します。

現在では、「電鑄」（めっきでモノをつくる技術）が私の専門だと周りの人に決めつけられていますが、この電鑄技術は、例えば極微量の試料を反応、分離、検出などの化学分析の際にも利用されています。微小化学分析システムの研究に、松田十四夫先生、白石晴樹先生の研究に少しでも手伝いでできればと思っています。

## (平均寿命)

さて、二〇〇一年八月二日に厚生労働省は、日本人の平均寿命は男性が七七・六歳、女性が八四・六歳であることを公表しました。その内容の新聞を読んでみると、平均寿命の新しいものは、二〇〇〇年に生まれた零歳児の平均余命が平均寿命のことだということに分かりました。平均寿命は、現在の医学・医療技術の進歩や交通事故発生を抑える技術などが現状のままで、死亡原因が変化しないという前提条件で算出された、新しい命が約八十年を生きることを意味しており、それぞれの年齢では、

例えば現在七十歳男性の場合、平均余命は十三・八九年となるように比較（差を計算）するのは的を得ていない訳です。

医療技術などの進歩が続けば年々平均寿命は延びて、二十一世紀の前半にも百歳を越え、後半には百二十歳に到達すると計算する人がいます。中には、年金制度崩壊や医療費、住宅の耐久性の問題などを心配する人も出てきています。

## (健康寿命)

健康寿命とは、痴呆や寝たきりにならないで、健康で元気に生活できる期間を指し、二〇〇〇年六月に初めてWHO（世界保健機構）が発表した指標です。世界第一位は日本で、七四・五歳だそうです。

ある講演内容の紹介ですが、三十年程前、脳卒中日本一であった長野県は、PPK（ピン・ピン・コリン）運動をして、現在は長寿日本一（女性第一位は沖縄県）、それでいて医療費が最も少ない県になりました。死ぬ直前までピンピンでいたら、費用もかからないことを証明されたということです。そして、元気で長生きしている人たちの共通点は、一に生涯現役であること、二に幾つになっても好きなことに夢中になる、新しいことに挑戦をするこ

と、なんだそうです。よく分かる気がします。そして更に、テレビなどで紹介されているように、バランスのとれた食生活も重要であると思います。

## (微量元素と健康)

山極先生の「サルはなにを食べてヒトになったか」の頁をパラパラと捲っていると、類人猿は動植物を含めた雑食性で、多種類の食物で栄養のバランスをとりながら摂食していた、また可食部に含まれているタンパク質やミネラル（微量元素）の量は、植物の種類や葉、茎、花などの部位で大きく異なっているけれど、ある地域のゴリラは、ある種の植物は葉だけを、別の種は樹皮だけというように、栄養素の含有率の高い部位を選んで食べているそうです。必要な栄養素を自分で摂取する能力が備わっているのだと思います。

人間の場合、テレビで放映していましたが、お酒を飲んだ後ラーメンを食べたくなるのは体（脳）がブドウ糖とナトリウムを要求しているのだそうで、人間も少しは能力があるけれど、基本的には情報を収集しないと分からない程この能力分野では退化しているので、はいでしようか。

比較的摂取量の多い必須ミネラルと呼ばれる、Na、K、Ca、Mg、Pなどの他に、一日の摂取量は微量であるが健康に重要なZn、Fe、

Cu、Mnの微量元素金属があります。例えば、体内に入った異物や毒物を除去する酵素などは、金属イオンが重要な働きをしているそうです。亜鉛が不足すると、味覚能力が落ちる、風邪を引きやすい（ウイルスの増殖が抑えられない）、傷が治り難いなどの症状を引き起こす可能性が大きいとされています。米国では錠剤の販売が許可されていますが、亜鉛欠乏の病人でない限り、供給源としての牡蠣、カニ、レバー類、ナッツ類などを食する方がよいと思います。

## (おわりに)

人間の寿命を縮める働きを持つ「短命遺伝子」をベンチャー企業と東大の研究グループが発見し、特許を取得しすでに長寿薬の開発に着手しているそうです。遺伝子を診断して、今にも遺伝子で治療する時代が来そうですが、一方で、遺伝子診断により、ある病気になりやすい遺伝子があり、その人に合った栄養補給の方法によって、個人レベルで情報提供ができるだろうともいわれています。食事は精神的にも重要でありますから、五感（味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚）を使っておいしく食べ、さらに、新しいことに挑戦していきたいと思っています。

(京都市工業試験場勤務)

## 「UBC 滞在記」

澤 村 精 治

(昭和四十九年卒)

昨年九月末から今年一月まで、大学の学外研究員制度で、カナダのバンクーバーにあるプリティッシュ・コロロンビア大学（略称UBC）に滞在した。この大学は、一八七七年創立で、学生数五万人（Full timeは三・三万人）を擁し、立命（三万人）を超える大きな総合大学である。「大橋巨泉の店」で有名なバンクーバー市の中心からバスで三〇分ほど離れた半島の先端にあり、コヨーテの住む森で囲まれたキャンパスの敷地は約四km<sup>2</sup>と衣笠キャンパスの三二倍、我がびわこくさつキャンパスの七倍という広大な敷地を持っている。キャンパスの周辺に教職員と学生用のアパートが多数あり、小生は速良く出発前にこの教職員用アパートの入居許可が届き、おかげで快適なキャンパス生活をおくることができた。

UBCという名前は、すでに「立命館・UBCジョイントプロ



グラム」という名称でご存じの方も多いと思う。毎年、立命館から一〇〇名の学生が八ヶ月間プログラムに基づいて研修する大学である。そのための学生アパート Rismenkan Houseもキャンパス内にあり、立命館の職員が一名常駐している。現地の学生も同居しており、彼らにとっては入居希望者が多い人気の高いアパートだそうである。おかげでキャンパス内での立命館の知名度は結構高く、初

めて会う人との挨拶には、あのアパートの大学と言うことで通用する。

立命からは、その他に文社系学部から一、二名きているらしいのと、理工学部からは前期課程の大学院生が半年の予定で三名が滞

在していた。たまたまそのうちの一名の現地の先生が小生のアパートの隣人であることがわかり、せっかく立命館を離れた彼の地でゆくり羽を伸ばそうと思っていたが、結局立命館の学生さんとお近づきにならざるを得ない羽目になつてしまった。彼女たちにとつても事情は同じだったでしょう。

キャンパス広しといえども案外狭いものです。

カナダの公用語は英語とフランス語であり、すべての公文書や表示がこの二言語で併記されているが、UBCではほとんどフランス語を話しているのをきくことがな

かった。むしろ中国語が氾濫し掲示板も至る所に中国語が見られた。バンクーバーでの中国人の比率はかなり高いようである。何年前だったか香港の中国への返還も影響しているのであらうか。後述する研究室の学生は香港からの移

住組らしく、育ったのはバンクーバーであるが大学入学とともに、家族は香港に戻って自分一人がバンクーバーの家に残っている由

ある。

卒業したら香港に戻るのだそうである。

研究室内の研修が学部長の指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

り議論できる機会と新たな装置設計のノウハウを得たいと思つてやつてきた。実験室は個研究室を含めて四室有るので結構広い。しかも、四室が隣同士ではなく離れたなれにあるので、よほどの用事がなければ出かけて行くことがなく、みんながそろって顔を合わせるのは、ゼミの時間ぐらいである。人口密度の高い立命では考えられない経験である。

## 研究室のこと

小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

在した研究室は、ボスの指導の下で進められている。小生の滞

## UBCのベストシーズン

九月末にUBCへやってきて最初

にされた質問は「なぜ今頃き

た？」である。意味が分かるよう

になったのは、十月に入ってから

である。それまでの連日晴天のす

がすがしい気候から、曇りと雨が

降り出し、久しぶりの雨だと感傷

に浸っていると、いつの間にかそ

んな日はかりで太陽が恋しくなる



# 応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学科(旧化学科)と化学生物工学科(旧生物工学科)の二学科から成り、合わせて三十一名の専任教員がいます(応用化学十七名、化学生物工十三名、語学一名)。今年度は新しいスタッフとして、溝口正助手と光山昌宏助手をお迎えしました。お二人の今後の活躍を期待しております。



溝口 正先生

本年四月より、応用化学科で二号助手としてお世話になっております。専門は生物物理化学で、「光合成アンテナ系の構造と機能の解明」というテーマで研究を行ってきました。これまでは、主に光合成アンテナ系のモデル化合物(クロロフィルの自己集積体)に対して、その構造決定を分光学的手法(核磁気共鳴、電子吸収、共鳴ラ

マン分光等)を用いて行ってきた。本学に赴任してからは、天然の光合成アンテナそのものを生体内より単離し、「光合成アンテナ系の再構成」という観点から研究を行っています。生体内では見られない有機合成したモデルクロロフィル等を天然のアンテナ内部に導入することで、導入したクロロフィル分子を分子マーカーとして、アンテナ構造、及び機能発現のメカニズムについて知見を得ることを目指しています。教員となつてまだ一年目で、勉強不足、経験不足を痛感していますが、皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いします。

**略歴**  
一九九四年 関西学院大学理学部化学科卒業  
一九九七年～一九九九年 日本学術振興会特別研究員  
二〇〇〇年 関西学院大学大学院理学研究科化学専攻博士課程後期課程修了(博士(理学))取得  
二〇〇〇年 立命館大学理学部化学生物工学科博士研究員  
二〇〇一年 立命館大学理工学部応用化学科二号助手

二〇〇一年 立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻博士課程後期課程修了



光山昌宏先生

本年度四月より、本学理工学部応用化学科二号助手として就任いたしました。専門は高分子合成で、ロジウム触媒を用いた脂肪族一置換ポリアセチレンの合成とその特性に関する研究において学位を取得しました。現在のお研究テーマとしては、ポルフィリン化合物を主とした、新しい有機EL素子の開発に取り組んでいます。

二〇〇一年三月に大学院博士課程後期課程を終えただばかりで未熟者ではありますが、皆様の御指導、御鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

## 略歴

一九九六年 龍谷大学理工学部物質化学科卒業  
一九九八年 立命館大学大学院理工学研究科物質理工学専攻博士課程前期課程修了  
一九九九年 立命館大学理工学部一号助手  
二〇〇一年 立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻博士課程後期課程修了

二〇〇一年 立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻博士課程後期課程修了

二〇〇一年四月 立命館大学理工学部 応用化学科二号助手

## 企画運営委員会報告

東 正弘  
(昭和四十二年卒)

第五回は、十一月十日に神戸方面で予定しています。

## 第六回「ゴルフ懇親会」

平成十三年五月十九日

応化会・企画運営委員会では、会員の親睦を目的とした活動をしていることをご存じでしょうか。ゴルフ懇親会・山歩き徒行会を年二回(春・秋)それぞれ開催し、先輩、同輩、後輩の相互の楽しい親密な交友関係が出来ています。仕事に現役の方は、同窓会の仲間から仕事の情報が入ったり、ビジネスチャンスが生まれたり、中高年の皆さんには、仕事を離れて、同窓会を利用したシニアの間作りは、有意義だと思います。ゴルフ・山歩き・写真の趣味をお持ちの方は、応化会事務局(武藤さん)へ登録頂ければ、開催のご案内を致します。

ぜひ一度覗いて見て下さい。

事務局電話

〇七七(五六二)二六五八

FAX

〇七七(五六二)二六五九

## 第四回「六甲山徒行会」

平成十三年四月二十八日

川口士郎氏(四十年卒)をリーダーに、男性九名、女性一名の参加があり新芦屋川から六甲山を経



# 卒業パーティー

## 平成十二年度卒業式

平成十二年度の卒業式が去る三月二十一日にBKCCにて行われ、化学科二四名、生物工学科八八名、合わせて二二二名が卒業生として果立っていきまされた。夕方には恒例の卒業・修了記念パーティーが、ホテルグランピア京都にて開催され、応化会会長を迎える中、和やかにかつ盛大に皆の門出を祝いました。先輩諸氏におかれましては、この新しいメンバーを今後とも宜しくお願いいたします。



## 事務局だより

助けて下さい迷いつ子

○応化会ニュースを皆様にお送りしていますが、毎回転居先不明の迷いつ子が百数十通もドサツと事務局に舞い戻ってきます。

応化会会員名簿でも、いったん住所不明になりますと、後からの調査は殆ど不可能です。

ゴルフ、山歩き、写真趣味等の活動を、活発に行っています。ご希望は応化会事務局で受け付けています。

○同期会・クラス会等のご計画に事務局で出来ることはご協力します。

○気軽に立ち寄って談話できる場所として、応化系事務室の応接室がご利用頂けます。

## 応化会事務局

受付

月・水・金 十時～十六時

電話

〇七七一五六一―二六五八

FAX

〇七七一五六一―二六五九

## 年会費納入への協力お願い

平成十三年度年会費(平成十四年三月三十一日迄)二千円を納入下さいませようお願いします。過年度分の会費の納入、未納入に関係なく平成十三年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全会員の皆様が完納下さいませようお願いします。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成十三年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

(注・平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。)

## 編集後記

今年度は3年に一度の応化会総会が京都タワーホテルにおいて盛大に開催されました。総会の模様は「同窓会通信、総会だより」の通りで、会長は引き続き田村弘三郎氏にお願いすることとなりました。その他の役員諸氏共々3年間ご苦労さまですが、よろしくお願いたします。

総会におけるZエスアナウンサー、川端義明氏の講演は、選挙開票速報の裏話ということで定期的に参議院選挙前であり、非常に興味をもって聞くことができ、たいへん有意義でした。

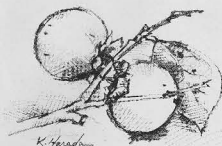
昨年の杉田先生の社報に続いて今年度は当応化会の顧問でありました、大田雄三、尾池耕三両先輩の社報をお聞きして驚いております。それぞれの追悼文をご寄稿頂き有り難うございました。また御両名のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

なお、新任の先生も2名着任され、応用化学系の拡充がはかられて、益々心強く感じられ嬉しい限りです。

○応化会・企画運営委員会で近頃

事務局を気軽に

ご利用下さい



(香山)

応化会名誉会員 (敬称略)

応化会役員名簿 (敬称略)

▼年度幹事▲

△(一部化学科)

企画運営委員会

顧問 大原八十八 (30年卒)

会長 吉田 巖 (27年卒)

副会長 田村弘三郎 (31年卒)

谷口 吉弘 (40年卒)

東 正弘 (41年卒)

立木 隆 (63年着任)

常任幹事 岸 要 (25年卒)

香山 彰明 (31年卒)

上原 正巳 (34年卒)

松尾 篤治 (38年卒)

北尾 舒彦 (39年卒)

中村 高武 (41年卒)

森崎 久雄 (平5年着任)

藤原 長政 (43年卒)

木越 俊雄 (46年卒)

前川 昭 (52年卒)

木本 衛 (60年卒)

山口 康人 (61年卒)

田口 久人 (平2年卒)

小林 秀明 (平4年卒)

山田 修司 (平11年卒)

松田十四夫 (38年卒)

白石 晴樹 (47年卒)

澤村 精治 (49年卒)

藤田 典久 (51年卒)

岡田 豊 (54年卒)

玉置 純 (平7年着任)

高木 一好 (平12年着任)

小高 一男 (52年卒)

加藤 知則 (平1年卒)

久保 幹 (平8年着任)

昭和18年卒 新谷 利保

20年卒 野村祐三郎

23年卒 岩橋 清

24年卒 目片 昭芳

26年卒 山田吉之助

(一部理科)

山田 益三

23年卒 福見 幸司

24年卒 今達 章治

25年卒 竹内 良夫

26年卒 八木 永治

(二部理科)

19年卒 奥(安井)悦

20年卒 林 幸男

22年卒 本村 一雄

25年卒 岸 要

26年卒 九鬼 敏隆

短期大学

27年卒 椿 年雄

28年卒 岡田 克巳

新制大学

(一部化学科)

27年卒 宇野 光造

28年卒 九鬼 敏隆

29年卒 八木 永治

29年卒 東 龍夫

31年卒 伊藤 徳昭

33年卒 池田 正巳

34年卒 上原 茂

35年卒 寺井 良平

36年卒 山本 好春

27年卒 岩崎 弘通

28年卒 富田 耕一

29年卒 磯島 文雄

31年卒 山上 満

32年卒 香山 彰明

33年卒 岡本 彰朗

33年卒 磯野(田村)貴美子

35年卒 澤田 明

36年卒 久保 澤夫

佐々木 豊

近藤 照雄

大谷 芳雄

37年卒 松尾 篤治

38年卒 金子 義孝

39年卒 寺川 昌次

40年卒 西原麒一郎

41年卒 野田 博之

42年卒 篠原 清

43年卒 藤野 長政

44年卒 岡村 昭信

45年卒 村上 俊男

46年卒 木村 俊久

47年卒 宮地 淳

48年卒 白石 晴樹

49年卒 澤村 精治

50年卒 米津 忠一

51年卒 松本 浩一

52年卒 久保田和孝

53年卒 河川 眞也

54年卒 前川 修志

55年卒 川澤 吉雄

59年卒 野口 博一

60年卒 古川 剛

61年卒 長谷川圭一

62年卒 菊池 英知

63年卒 山口 康人

63年卒 岡田 肇

坂根 正恭

栗津 尚之

2年卒 大山 良隆

小川 久人

染谷 啓

3年卒 中村 俊博

4年卒 桐村 寛

4年卒 目片 秀明

5年卒 西山 芳樹

6年卒 末光 登

6年卒 草野 富雄

7年卒 野阪 武義

8年卒 宮武 智弘

8年卒 村山 公一

9年卒 尾川 雅章

9年卒 日片 秀明

10年卒 武田 直樹

10年卒 山田 佳博

駒 大輔

若園 恵一

11年卒 小池 竜一

12年卒 山本 修志

13年卒 宇野健二朗

13年卒 籠橋福太郎

川勝 論

正弘 (41年卒)

副委員長 中村 尚武 (41年卒)

委員 上原 正巳 (34年卒)

委員 松本 幹生 (38年卒)

委員 藤原 長政 (43年卒)

委員 村上 俊男 (45年卒)

委員 小島 一男 (52年卒)

委員 前川 昭 (52年卒)

委員 山口 肇 (62年卒)

委員 小林 久人 (平2年卒)

委員 目片 秀明 (平4年卒)

応化会二又編集委員会

委員長 香山 彰明 (31年卒)

委員 岸 要 (25年卒)

委員 北尾 舒彦 (39年卒)

委員 澤村 精治 (49年卒)

委員 森崎 久雄 (平5年着任)

委員 岡田 典久 (51年卒)

委員 玉置 純 (平7年着任)

委員 高木 一好 (平12年着任)

委員 木本 衛 (60年卒)

委員 日片 康人 (61年卒)

名簿管理委員会

委員長 岸 要 (25年卒)

委員 宇野 光造 (22年卒)

委員 木村 一雄 (27年卒)

委員 字野 朗 (32年卒)

委員 岡本 彰 (37年卒)

委員 北尾 舒彦 (39年卒)

委員 荒木 武樹 (43年卒)

委員 白石 晴樹 (47年卒)

地域別活動推進委員会

委員長 三上 正勝 (37年卒)

(委員は今後選出)

平成12年度(2000年度)事業報告

I. 諸事業

- 1) 第4回懇親ゴルフの開催(企画運営委員会) 2000年5月13日
- 2) 第3回北良徒行会の開催(企画運営委員会) 2000年10月28日
- 3) 第5回懇親ゴルフの開催(企画運営委員会) 2000年11月18日
- 4) 2000年3月卒業生名簿作成 2000年10月1日
- 5) 応化会ニュースの発行 2000年10月1日
- 6) 全会員への通信 2000年10月1日  
(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求ほか)
- 7) 在学生への通信 2000年10月1日

II. 諸会議

- 1) 幹事会
  - 第1回 2000年6月17日
  - 第2回 2000年10月14日
  - 第3回 2001年2月24日
- 2) 委員会
  - 応化会ニュース編集委員会
  - 企画運営委員会
  - 名簿管理委員会
  - 役員選考委員会

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2000年10月29日
- 2) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2001年3月21日

平成13年度(2001年度)事業計画

I. 諸事業

- 1) 徒行会の開催(企画運営委員会) 2001年4月28日
- 2) 懇親ゴルフの開催(企画運営委員会) 2001年5月19日
- 3) 全会員への通信(総会案内) 2001年5月22日
- 4) 第7回総会の開催 2001年6月17日
- 5) 2001年3月卒業生名簿作成 2001年9月
- 6) 応化会ニュースの発行 2001年10月
- 7) 全会員への通信 2001年10月  
(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求など)
- 8) 在学生への通信 2001年10月

II. 諸会議

- 1) 幹事会
    - 第1回 2001年5月26日
    - 第2回 2001年10月
  - 2) 常任幹事会
  - 3) 委員会
    - 応化会ニュース編集委員会
    - 企画運営委員会
    - 名簿管理委員会
    - 役員選考委員会
- 2001年4月21日

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2001年10月
- 2) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2002年3月

平成12年度(2000年)応化会会計決算報告

一般会計		予算額	執行額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>			
前年度繰越金		1,726,391-	1,726,391-
会費(一般)		3,500,000-	2,320,000-
会費(学生)		2,100,000-	2,100,000-
寄付金		500,000-	161,000-
雑収入		10,000-	1,202-
合 計		7,836,391-	6,308,593-
<b>&lt;支出の部&gt;</b>			
総会開催費		0-	0-
事業等補助金		500,000-	24,890-
会議費		200,000-	113,277-
印刷費		1,000,000-	454,177-
郵便送料		2,000,000-	1,044,787-
人件費		450,000-	339,500-
事務局費		50,000-	31,882-
雑費		100,000-	31,500-
拠出金(特別会計へ)		2,350,000-	2,350,000-
拠出金(連絡協議会へ)		100,000-	100,000-
在学生活動援助費		150,000-	150,000-
振り込み手数料		100,000-	59,960-
予備費		836,391-	0-
合 計		7,836,391-	4,699,973-

次年度繰越金 1,608,620-

特別事業会計

特別事業会計		予算額	執行額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>			
前年度繰越金		2,590,254-	2,590,254-
拠出金		2,350,000-	2,350,000-
名簿売上(一般)		10,000-	63,000-
名簿売上(学生)		10,000-	0-
名簿荷造送料		1,000-	73,500-
名簿広告掲載料		0-	0-
雑収入		1,000-	29-
合 計		4,962,254-	5,076,783-
<b>&lt;支出の部&gt;</b>			
名簿出版費		0-	0-
名簿荷造料		400,000-	302,359-
人件費		800,000-	446,360-
事務局費		500,000-	373,012-
予備費		3,262,254-	0-
合 計		4,962,254-	1,121,731-

次年度繰越金 3,955,052-

平成13年度(2001年)応化会会計予算

一般事業会計		予算額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>		
前年度繰越金		1,508,620-
会費(一般)		3,000,000-
会費(学生)		2,200,000-
寄付金		300,000-
雑収入		5,000-
合 計		7,013,620-
<b>&lt;支出の部&gt;</b>		
総会開催費		550,000-
事業等補助金		200,000-
会議費		200,000-
印刷費		1,000,000-
郵便送料		2,000,000-
人件費		500,000-
事務局費		50,000-
雑費		100,000-
拠出金(特別会計へ)		1,000,000-
拠出金(連絡協議会へ)		100,000-
在学生活動援助費		200,000-
振り込み手数料		100,000-
予備費		1,013,620-
合 計		7,013,620-

特別会計

特別会計		予算額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>		
前年度繰越金		3,955,052-
拠出金		1,000,000-
名簿売上(一般)		10,000-
名簿売上(学生)		10,000-
名簿荷造送料		10,000-
名簿広告掲載料		0-
雑収入		1,000-
合 計		4,986,052-
<b>&lt;支出の部&gt;</b>		
名簿出版費		0-
名簿荷造送料		50,000-
人件費		500,000-
事務局費		200,000-
予備費		4,236,052-
合 計		4,986,052-